

ドキュメンタリー映画

熊と蜂蜜とアキオさん

春よこい



森が教えてくれた、
森が死んでいくと、
地球温暖化。
原発事故。
消費社会。

私たちは気づいていない
欲にコントロールされていることに
本当は幸せになるために
この地球にやってきた。

熊を撃つことだけが目的ではない
ただ、自然の一部になること——

監督：安孫子亘

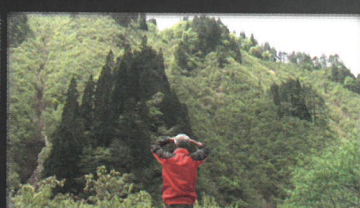
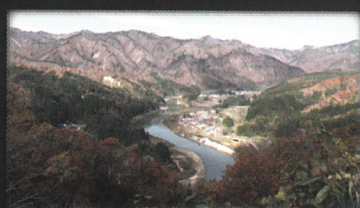
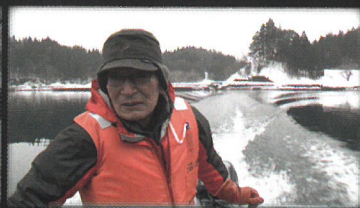
出演：猪俣昭夫 福島県金山町の皆さん

音楽：東出五国 編曲：野崎洋一 秦野萌 音楽監修：秦野萌 ナレーション：山本紀彦 録音・MAスタジオ：アフタービート 沼尻一男 本橋大輔
編集スタジオ：会津ジイゴ坂学舎 字幕翻訳：シング麻美 題字：千葉清藍 ポスターデザイン：瀬川晶 福島大学芸術による地域創造研究所
プロデューサー：ナオミ 企画・製作・配給：株式会社ミルインターナショナル

©2015 春よこい製作委員会

熊を追う。

——なぜ？それは山が知っている。



舞台は福島県金山町。

2011年3月。東日本大震災・福島第一原発事故による放射能は、130km離れた金山町の自然にも降り注いだ。野生動物をはじめ、町の観光資源であるヒメマスまでもが汚染された。

ここに暮らすマタギ猪俣昭夫は、生き物の猟をしながら汚染された山、川、湖と向き合い、元の金山町の自然を取り戻すべく献身的な日々を送っている。

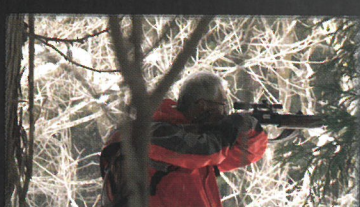
マタギの生業は熊を撃つことだけではない。山の神を敬い、おきてに従い熊を撃つ。そして、人と自然が共に暮らす術をマタギは教えてくれる。これからのマタギは何をすべきか。若者を自然界へ誘う新しいマタギの世界をこの奥会津に見た。

原発事故以来、世界中が自然との共生へと歩み始めた。自然とは何か。

猪俣昭夫は、黙々と自然の大切さを説いた。

やがて全てが戻る日を願い、金山の急峻な山を見上げた。

福島県 奥会津のマタギ 猪俣昭夫、金山の自然と共に生きる感動の物語。



監督

安孫子亘(映画監督) 1959 北海道小樽市出身

2011.3.11震災以降、福島県下郷町に製作拠点を置く。震災の爪あとを記録するのではなく、再生に向け歩む、美しい福島を描く。「檜枝岐歌舞伎やるべえや」、「生きてこそ」(ドキュメンタリー映画)

お問合せ: 春よこい製作委員会 © 2015 春よこい製作委員会
TEL : 090-3098-7077
E-mail : mirufilm@am.wakwak.com
公式サイト: <https://www.mirufilm.com/>

下郷町芸術文化鑑賞事業

豪華ゲストを迎えた映画とトークのスペシャルイベント

2022 12月4日(日)

ドキュメンタリー映画 監督 安孫子亘

春よこい~熊と蜂蜜とアキオさん

上映+ゲストトーク 入場無料

開場: 13:00 開演: 13:30

会場: 下郷ふれあいセンター大ホール

お問合せ / 下郷ふれあいセンター 0241-69-1112

主催 / 下郷町・下郷町教育委員会

後援 / 下郷町文化協会

※ 感染症予防のためにマスク着用をお願いします。

◆佐々木正己(日本みつばちの第一人者)

1948年東京生まれ。玉川大学農学部卒業後、東京大学の大学院を経て1975年玉川大学助手に。途中2年間のワシントン大学動物学部研究員を経て1988年から教授。ミツバチ科学研究所主任農学部長、大学院農学研究科長、学術研究所長を歴任、現在同大学名誉教授。著書は「養蜂の科学」「ニホンミツバチ」「蜂からみた花の世界」「動物は何を考えているか」など多数。

◆猪俣昭夫(金山のマタギ、奥会津日本みつばちの会会長)

1950年奥会津金山町生まれ。マタギの父と幼少から山に入り育つ。十代の頃、山で父を亡くすもその志を継ぎマタギの道へ。冬の雪山で熊を追ひ、ヒメマスやニホンミツバチを手がけ、自然と共に暮らす事を実践している。

◆安孫子亘(映画監督、下郷町在住)

映画「春よこい」の制作からニホンミツバチの養蜂を始める。世界中のミツバチが居なくなったら4年で食料危機がやってくる。という言葉からミツバチの働きに強くひかれている。